

通信



佐賀・宮崎・大分を視察して (二)

瀧川 勸 則

八 西九州から東九州へ

九州は多くの場合南北に分けて論ぜられてゐるようであるがこれは中央部を縦貫する瀬戸内、霧島兩火山脈及九州山系に屬する諸山が甚だ峻嶮で東西の交通を遮斷してゐるばかりでなく東九州も西九州も南北の交通と文化とは中央方面との連絡上各々關係的且系統的に發達し従つて南北を比較するを容易ならしめた爲である、然し東九州は保守的

地勢であるから古來支那、朝鮮、オランダ、ポルトガルなどを相手に相當磨かれた西九州の文化に遜色あるは否み難い事實である。私は旅行中表九州裏九州といふ言葉を使つてみた、表とは交通及文化の程度高き方を意味すること勿論であるがこの言葉は宮崎縣民の耳に甚だ心外に響くらしい、その根本的理由は高祖發祥の靈地を裏とは以ての外であるといふことゝ本州に於ては大平洋方面を表と謂ふではないかといふ二つに歸するらしい、又大分縣の人に言はし

むれば別府の文化を知らないかといふかもしれないと思ふ。然しながら先苦言を呈するには九州を東西に分つて比較研究するに如くはない。

借西九州から東九州に旅行する者は果して何れを經行するが最も便利なのか、私は今佐賀から宮崎に行こうとしてゐるのであるから、午前七時四十五分佐賀發の列車を標準として調べて見る、第一は熊本及吉松を經由する線である距離三百四十九軒十四時間十五分を要して宮崎市に到着し得る、第二は小倉及大分を經由する線である距離四百六十一軒十四時間三分を要する、第三は熊本から阿蘇山麓を横斷して大分に出て南下する線である距離四百七十軒十五時間三十七分を要する、以上何れの路を採るにしても距離の割合に時間が掛る、殊に乗換度數多きため全線急行を利用し得ない、今試に之を中央方面の鐵道交通に比較して見ると超特急富士は東京米崎間八百三十二軒を十三時間五十八分で走破し又東京名古屋間三七七軒を五時間五十七分で走破し得るから時間からいつても距離からいつても約二倍半

の能力があるわけである、目下工事中の久大線が全通すれば餘程便利になるに違いない、又自動車に依る捷路の利用を充分研究し所々之に依つたならばいくらか時間を短縮し得ると思ふ。要は速に脊梁山脈を征服し東西の連絡を容易ならしめ樞要地間の關係を緊密にすると同時に眠れる宿源の開發を促進するにある、然らざれば東九州の文化は永久に西九州のそれに及ぶべくもない、此の目的を達するためには幾多の困難と戦はねばならぬが先山地を横斷する道路を改良し自動車の發達を期さねばならぬ、九州に於ける東西連絡の使命は獨り鐵道のみを負ふべき所ではない、幹線道路さえ自動車を通し得ず、辛うじて通じ得たりとするも危険極まりなき状態であつては到底急速の發展を處期し得ない、然しながら現状の下に於ては鐵道に依らざるを得ないのである、私は乗換を利用して球磨川橋を視察し得る事と大畑のループ線とに誘惑されて吉松經由で先宮崎縣南部に入ることゝした。車中に地圖を開いて刻々車窓に展開する事物に付研究を始める、重要道路と鐵道との交叉する箇

所など特に車窓から麒麟の如く首をさし延べて觀察する其の狀況如何によつて或は喜び或は不安を感じ一喜一憂交々至る有様である、産業都市として久留米、大牟田は流石門司、八幡にも遙らぬ位で林立する煙突から勃焉として煙を噴く様は不景氣いづくにありやと言ひたげである、大牟田を過ぎて間もなく汽車は有明海の沿岸に出で海を隔て、遙に雲仙岳を望み得る熊本繁榮は車中から伺ひ得なかつたが左窓東方を望めば群峯天を望んで亂立する中に王座の如き中央の一山煙を噴くは阿蘇の靈峯である、此邊は命令地外で説明してくれる縣の人も居らぬので列車の高速の時などあれを見之を伺ひ戦場のようなさはぎである。

斯して目に觸るゝものゝ總てを研究し盡そうと努力するのであるが通過してしまつてから重要なものを逸してゐることを一再ならず發見する、八代に着いたのは十二時七分であつた、こゝで乗換の爲一時間の暇があるので町外二號國道球磨川橋を視察することゝした、此の橋は工費二十五萬五千圓で國庫の補助を得橋梁工事は既に立派に竣功して

ゐるのであるが取付道路が線形甚だ悪く不便のように見受られた、改築の認可は既に得て居るそうであるから近く交通能力を上げ得るよう改善せらるゝだらう、八代から不知火海に沿つて南下してゐるのは肥薩線である、鹿兒島本線は球磨川に沿つて溯つてゐるが此の川は流水清く且奇岩怪石所々に秀で絶勝目を新にするものがある、人吉から汽車は川をすてゝぐんぐん昇つて行く、殊に急傾斜の山岳に登るに際し軌條を螺旋狀に敷設したところがある即ち大畑のループ線である、大畑附近は高原性を有し、南方足下に眞幸平が開けてゐる、南東遙に霧島の峯巒波濤の如く連り景致極めて雄大である、汽車は矢嶽驛附近で熊、宮縣界を越へ眞幸、吉松間で宮、鹿縣界を越へる、吉松は小倉で鹿兒島本線から分岐した日豊線が東九州を縦斷して再び接続するところで九州南部に於ける東西交通の要衝である、鹿兒島本線はこゝから南下し錦江灣頭に出て鹿兒島市に達してゐる、日豊線に依つて東すれば三度縣界を越へて愈々目的地宮崎縣にはいる。

九 宮崎縣の綱概

宮崎縣は九州東南端を占め古弓の形をしてゐる、其の弧は北、西、南に亘り、北は桑原、祖母の二山を以て大分縣に、西は三方、國見、市房、白髮の諸山を以て熊本縣に、南は霧島の諸峯及金御岳を以て鹿兒島縣と相接し、而して其の絃は大平洋に面し常に日向灘の波浪にあらわれてゐる、之に矢を番へて放てば或は上海を或は北平を自由に攻射し得る構である、東西十七里、南北四十里、面積五百二十方里(全國中第八位)人口七十六萬人(同第三十五位)を抱容する大縣であるが、交通の發達は未だ不充分で、海岸は良港に乏しい、河川は西部の山地に源を發し總て東流する其の主なるものを北から順次數へると五ヶ瀬川、耳川、小丸川、一ヶ瀬川、大淀川の六川であるが各々その流域に相當の平野を有し河口には都邑を持つてゐる中にも大淀川流域は廣大な平野で河口に近く縣治並産業の中心宮崎市があり、上流には都城市と小林町とがある。廣大な山林原野は天産に

惠まれてゐるに不拘未だ開發せられず、文化の程度は高しと言ひ難い、縣は之等資源開發の必要を認め移民の入縣を保護獎勵しつゝある状態である、年生産の總額は一億一千二百七十萬圓、此内純農産額は五割五分を占めてゐる。翻つて日本歴史を繙く時日向は實に惠まれた國である、天孫降臨の靈地として尊い誇に輝いてゐることは誰知らぬ者もない、試に早曉大淀川のほとりに立つて模糊たる曉雲の間から靜かに表るゝ霧島の靈峯を仰ぎ見よ祖宗肇國の傳説に想到せざるを得ない。又五ヶ瀬川を溯つて神都高千穂町を訪ね、高天原、櫛觸峯、天の岩戸、四皇子峯、天香久山、天真、名井、二上峯など神代傳説の纏る神跡を探り、雄渾なる山光、秀麗なる水色に接する時、神意脈々として心に迫るを禁じ得ない、又縣内至る所に壘々たる古墳があるそこには往昔勇躍した先人が地下に永遠の安住を求めて安らかに眠つてゐる、路傍に横たはる一塊の土一片の石にさえ神々しい香りと古い匂ひとが感ぜられ心なき草木にさえ奇しきロマンスが傳へられてゐるのである、敬虔と追思想

はず詩境の人となつて默想する、此の時沸然として胸底に湧くものは大和民族としての幸福感である。我國の神話は古代歐洲の神話に比較する時甚だしい相違のあることを發見する、歐洲思想界の二大潮流は、ヘレニズムとヘブリュイズムとであつて前者はギリシャ神話となり文藝に其の生命を傳へてゐるのに對し後者は聖書となつて宗教に生きてゐるが、前者は著しく享樂的で自然的で且肉肉的であり後者は精神的で理想的で而も靈的であつて一は詩聖ホーマアの幻想から一は偉聖キリストの理想から生れたのである、其の言ふ所極めて巧妙で感情上人を動す力が強い、我國の神話は基礎に於て著しく之と異り事實を基礎とする祖先の物語であるから人格的感化力が強大である、此の如き神話發祥の地に居住する日向人は神に近いのである。要するに「古國日向」が現在に於ける宮崎縣の正體であると謂つてさしつかえないのである。

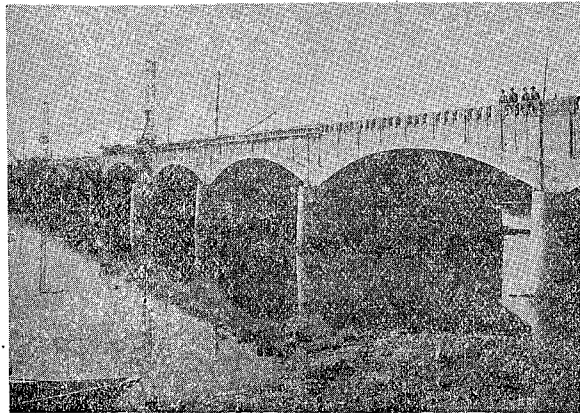
十 宮崎縣の道路

本縣の交通は未だ充分發達してゐない。鐵道も、道路も河川に於ける舟筏の利用も、海上交通も最も開けたところで尙辛うじて日常の需要に應ずる程度で到底豊富な資源の開發を促す程度に至つてゐない、或時耳川流域に廣大な森林を所有する人が之を賣却しようとして商人を呼び迎へて交渉して見たところ、其の木材は希に見る立派なものであるに不拘之を市場に運送する機關がない色々研究してみると、其の森林を只で貰つて伐採し道路を開鑿して之を市場に運送するとすれば其の材木が市場に到着した時の實價は市場に於ける時の相場と比較し一石に付數圓高價に付くとのことであつて金を附けてやらぬと貰い手もない物持乞食といふ言葉そのまゝで寶のもち腐れ以上である之は旅行中親しく聞いた事實談であるが、大資本を以て之等奥地の林業經營に當る某富豪は金百萬圓を道路開設の爲に寄附したといふような事もある位であるから北海道の奥地でも希に聞く話である、それはさて置き道路交通の幹線は何と云つても國道三號路線である本路線は大分縣から來り海岸線に

沿つて南に走り延岡、美々津、高鍋を連絡して宮崎市に至り更に西南に向ひ都城市を経て鹿兒島市に達してゐて其の延長四十四里二十七町である、府縣道の

重要なものは延岡で國道から分岐し熊本市に達する路線、妻人吉線、宮崎人吉線、宮崎市から海岸線に沿つて油津福島を連ぬる路線及油津飢肥都城を結ぶ路線などである、然しながら之等も一部を除いては幹線道路たる機能を充分發揮し得るに至つてゐない。網の見地から觀察しても宮崎市及都城市附近が稍發達してゐる位で取立てゝ認め得べきものはない、府縣道の延長は四百二十六里十五町で一方里當國府縣道の延長は三十三町の割合である、

其の維持修繕費は一里當五百四十一圓であるから此點は他の府縣に比し誇るべきところで、従つて道路が一般に幅



改築中の橋

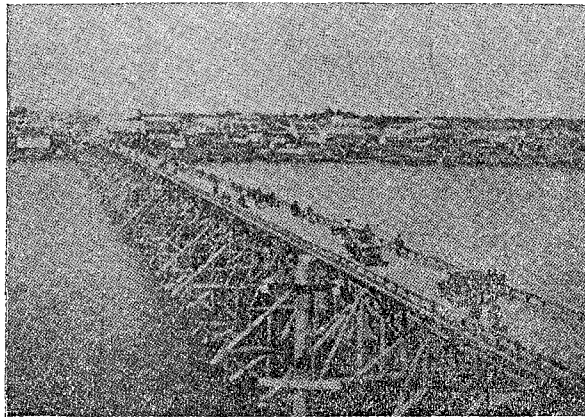
度狭少で屈曲勾配に遺憾の點あるに不拘路面は良好である、又春秋の二期に在郷軍人、青年團、處女會等を中心に縣民總動員で縣下道路の全體を清掃し道路愛護の實を擧げつゝあることは非常にいゝ傾向であり良好な成績を擧げてゐる、本縣道路の發達に付特に感じたことは普通何れの府縣に於ても名勝史蹟を中心とする道路が最も急速に發達し附近の産業を開發しつゝあるものであるが本縣はその傾向がやゝ薄い、これは本縣の名勝史蹟は獨特のもので祖宗肇國の當時天險に據らなければならなかつたことが一つの理由であると思ふ。

十一 道路改良計畫と失業救濟事業

道路の現状は前節に述べた通りであるから之が改良は刻下の急務であるが縣は先幹線道路の改良を計畫した、即ち

千人此の内既に延六萬八千二百人を使用せる実績(一月末現在)に徴すると失業者及要救濟農業労働者は七十九%と豫

國道に於て宮崎市内橋橋は工費百三十一萬九千圓を以て改築中で本年四月竣功の豫定である、耳川に新架する美々津橋は工費二十四萬六千圓を以て六年度及七年度に施行する筈であるが未だ工事に着手してゐない、都城市内に在る嶽下橋は工費七萬圓を以て改築する筈である、府縣道に於ては繼續費に依るものに妻人吉線、岩戸竹田線、宮崎大宮線があり、此の外宮崎熊本線、都城飫肥線、宮崎福王寺線、西小林停車場小林線が改築中で其の本年度支出額は二十六萬七千圓である、而して府縣道は總て失業救濟事業として施行するのであるが其の勞力費は十四萬二千六百五十五圓使用労働者延人員は十一萬一



橋の舊態

町村に於て一應個人から買收し然る後之を道路用地に寄附するのと大いに趣を異にする、希に例外はあるかもしれぬ

想される、即ち八萬八千七百人が事業の恩點に浴するわけである、之を縣内要救濟者總數二千四十八人と比較してみると一人に付四十三人三分使用されることとなり、労働標準賃金五十錢であるから一人の收入二十二圓となるわけである、而して本縣の失業救濟事業に於ても佐賀縣と同様農業労働者中救濟を要すと認められた者はどしどし就勞せしめたので世評非常に良好である、又本縣の道路工事に於ては其の用地は總て個人の寄附である、他の縣の實例の様に地元

が、橋橋などの實例に依ると取付道路の用地を寄附すると自分の住むべき土地が無くなつてしまふ人が二、三人あつたが斯る人達でも公共の爲に潔よく寄附して自分は借地住居に甘んじてゐるとのことである、宮崎市の銀座と言はれる橋通でさえこの通りであるから外にもこんな例は多々あると思はれる、そこらあたりの我利々々盲者に聞かしてやりたい話ではないか、之は縣民が公共事業に對し非常な自覺を持つて來た證據であるが縣當局に於ても此の狀態を利用して大道路事業の計畫を樹立すべく鋭意研究中であると謂ふが誠に喜ばしいことである。

十二 都城市附近

都城は人口三萬六千人宮崎市に次ぎ本縣第二の都會で、小林町と共に大淀川の上流霧島山麓に發達し所謂高千穂平原の中心地である、宮崎市を西南に去る十三里半鹿兒島縣界に近く位置し國道交通の要衝に當つてゐる、小林町と都城間は都城小林線に依つて結ばれてゐる、小林町は人口二

萬九千人霧島登山の要衝で附近一帯は良質の米を産することと有名である、都城小林線は霧島山麓を横斷する道路であるが屈曲、勾配及路面は惡くはない、然し沿線に連櫓する人家は大半田舎家には稀に見る立派な垣をめぐらしてゐてこれが道路の兩側に確然と立つてゐるから幅員が極めて狭く感ぜられる、霧島が國立公園にでもなれば改築を要する、都城から飢肥に至る道路は今年度失業救濟事業として一部最惡な箇所を改修した工事は既に竣功し勞働者使用に於ても立派な成績を擧げ得たことは幸である。國道三號線の嶽下橋は一日自動車の通行一千臺を算するも既に腐朽甚だしく先年大修繕を行つたが寫眞に示す通り假支柱甚だ多く一端出水に際會せんか危険に曝さるゝこと必定である

十三 都井の岬へ

都城から嶽下橋を渡り左に折れ都城岩川線によつて鹿兒島縣に入り更に都城志布志線に依つて志布志に出て有明灣頭を東に進めば間もなく再び縣界を越へ行程五時間にして

宮崎縣最南端都井岬に達する、都城を出發して間もなく宮、鹿縣界に立つて兩縣の道路を顧ると其の維持方法に相違の

あることを發見する、其の横斷勾配に

於て宮崎縣の道路は緩い弧を畫いてゐるのに對して、鹿兒島縣のものは陣笠を斷つた形をなしてゐる、何れを可とするか俄に論斷し難いが、陣笠形の横斷勾配を付した道路を通行する諸車は幅員三車線内外の場合には道路の最高部分を左右の車輪の中央に挟んで通行する、即ち交通物體が左側通行の原則に従いにくいことを實見し得た。末吉町を過ぎ見歸原に至る頃西方群巒の上に櫻島の最高峯を望み得る、霧岳附近から道路は海岸に向つて緩に降つて行く、志布志は寒中子供が跳で遊んで居る程暖く一昨日佐賀で大雪に會つた私達をしていたく驚かしめた。福島港は宮

崎縣最南部の樞要地で大阪商船の寄港地である、都井岬は蘇鐵の自生地として知られ又放牧場がある現在二百餘頭の



嶽

下

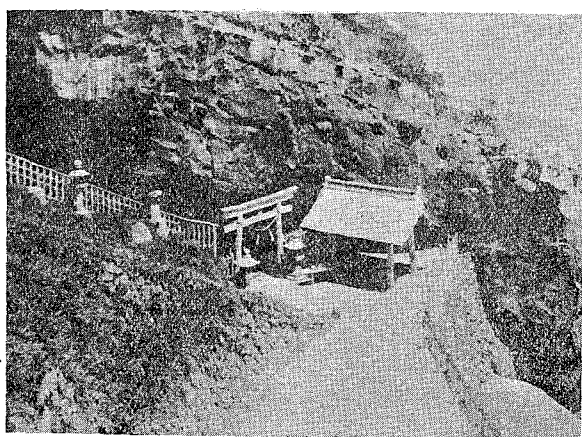
橋

馬が放牧されてゐて自然に繁殖し何等人工を加へるところがない、此の馬は村民百七十人の共有で年々三、四十頭位は市場に賣出さるゝ、そうであるが、小柄で力が強く山地の使用に好適する由である、牧場の歴史はかなり古いものゝようである、尙此處は築島と共に猿の名所である、岬は高さ二百九十六米、宛も窟をふせたような形である、丘上より前面を望めば紺碧渺茫限りなき太平洋で、或はアメリカに或は南洋に自由に想を馳せ得る、南方足下に有明灣があり西南地平線のほとりに種子島と屋久島とがかすんで見える。岬端怒濤岩に碎くるところに岩窟があり其のなかに綿

津海神を祀る古社御崎神社がある。

十四 都井岬から宮崎市へ

都井岬から海岸傳ひに北上すれば油津港、鵜戸崎及青島を經行程七時間にして首都宮崎に達する、油津港は飢肥町の東二里のところに在り船材として有名な飢肥杉の集散地である、油津鵜戸線は或は斷崖を横ぎり或は小高き丘陵を越え曲折極りない路線で七年度改良豫定箇所が所々にある、鵜戸崎は赤江灘に突出した小半島であるが尖端に達するには山に刻まれた急勾配の石段を登り、更に古杉老松鬱蒼たる八丁坂を下らねばならぬ、而して足下に激浪奇岩を嚙むで雪山を崩すところを僅に左すれば朱塗の玉橋が架つてゐる、橋を渡れば東西二十一間南北十六間高さ一丈八尺の洞窟が海に向つて口を開いて

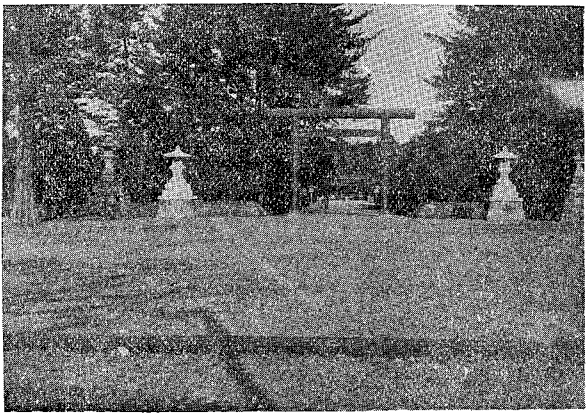


鵜 戸 神 宮

ゐる、天孫瓊々杵尊の御子彦火々出見命の妃豐玉媛命は此の洞窟内で神武天皇の御父鸕鷀草薙不合尊を御生になつたのである、現在洞窟内に鎮座する官

幣大社鵜戸神宮は即ち鸕鷀草薙不合尊を祀つたものである。名物鵜戸鈴は附近の少女等に依つて賣られてゐるが、此の鈴を買はずして参道を通り過し得る者は殆どない、彼女等は参道に参詣の人を待つて鈴を賣るのであるが、其の商法は實に積極的である、始めは戀人に耳語する如く近寄るのであるが若し十錢をしむで賣はずに行き過ぎようとすると忽ち總攻撃に會つて一步も動き得ない。而して此の鈴に付ては奇しくロマンスが傳へられてゐる、豐玉媛命は葦不合尊を御生みになつて間もなく海に向ふに御旅行遊ばされたので授乳にお困りに

なつた揚句此の飴を作つて御養育申上げたと云ふのである。飴は竹皮に包まれて賣られてゐるが此の竹皮を煎じて飲むと母乳なき人に忽ち母乳が湧出すとのことである、飴と母乳との關係に付ては現代の醫學上に於ても充分根據あることである。曾て或長官が縣内を視察して飴押賣の狀況を目撃し怪しくらぬといふのでこれを禁止したところ此の部落の税金が全然納まらなかつたとのことで當局も今は押賣を默許してゐるのは不得已のことであろう、むしろ飴に纏るロマンスを天下に紹介して民衆の理解に訴へるを可とすると思ふ。青島は宮崎市の南方四里の地點に夢の如く浮ぶ一小島であるが橋を以て本土と連絡してゐる、數百種の熱帶性植物が自生し中にもピロー樹林はすばらしいものである、島中に青島神社がある



宮 崎 神 宮

り、彦火々出見命、豊玉媛命、鹽土翁が祀られてゐて史蹟景勝併せ備はり宮崎市との交通は大いに開けてゐる、宮崎

市は人口五萬五千人、神武天皇を祀る宮崎神宮を始め附近に史蹟名勝頗る多く、皇神御東征を議し給ひし古都であるが、商工業都市としても近時漸く躍進の途上に在り一日平均二戸を増加しつゝある。

十五 佐土原、妻及高鍋

宮崎から國道三號線を北に進み更に宮崎佐土原線にはいつて一ツ瀬川の中流に出すれば佐土原町がある、名物佐土原人形は神代から傳はつてゐる宮崎縣特有の美人をモデルにし

て作つたものだそうだ。一ツ瀬川に沿つて佐土原妻線を西北に進めば間もなく妻町に達する兒湯郡の中樞を爲す新市

街であつて米良、椎葉の山村は凡て此處に開發されるのである、附近に有名な西都ヶ原古墳群がある西都ヶ原は廣袤四軒の高原で古墳二百四十九基を有し宛然古墳の都である高臺の中心に在る男狹穗塚と女狹穗塚は規模最も廣大で、外周四百間、二重の外濠をめぐらし其の内に一大銚子塚がある高さ十間及八間由緒なくして築かるべきものではない、御陵墓參考地に指定されてゐるが、瓊々杵尊及其の妃木花咲耶媛命の御陵と傳へられてゐる。都萬神社は木花咲耶媛命を奉祀したものである、命は淑德麗はしかりしばかりでなく櫻は命が初めて我國に齎したものと謂はれてゐる。西都ヶ原の入口に史蹟研究所があり附近には天孫に關する傳説地が多い、又原の南方を三宅邑といひ國府跡、國分寺跡、國分尼寺跡があり日向古代文化の中心地たりし面影を残してゐる、高臺の一角に立つて一ツ瀨川の流域を見渡せば川を隔て、雄大な茶臼原高原が遙に古墳を戴いて闊がつてゐる茶臼原は故石井十次氏が岡山孤兒院農林部を開いたところである、妻から高岡高鍋線に依つて高鍋町に出

る、高鍋から小丸川を二十軒溯ると木城村石河内があるこは武者小路實篤氏が新らしい村を經營してゐるところであるが時間がないので其の實況を視察し得なかつた、かく多くの人々が日向を選んで新らしい試をするのも一つには此の地のみで味ひ得る神の力に縋らむとする心からではあるまいか、宮崎から妻まで及妻から高鍋までの道路は改修もされてゐるし、維持も良好であるが、西都の原の道路は甚だ悪く主要な史蹟を天下に紹介するに不適當である。

十六 美々津から延岡まで

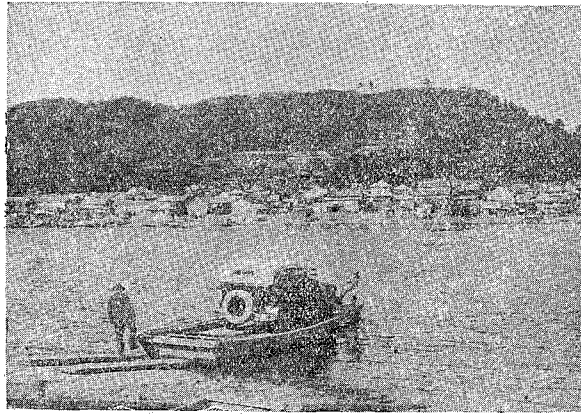
高鍋から國道三號線を一直線に北進する、兩側に老松の並木を持つた立派な道路である、此の附近は道路敷地が廣く十一間位のところもあるとのことだ、有效幅員は三間乃至四間位で直ちに並木に接してゐるから並木より外側に立派な歩道が作れる位である、高鍋の北方六里のところには耳川があり河口に美々津町がある、美々津は神武天皇御東征の際船出された港であつて港畔の立誓神社境内に神武天皇

の御腰掛岩がある、天皇解纜の御船備を待たれこの岩に憩はれた、八月一日は御船出の記念日であるから家々でつきいれ餅を作つてお祝する、つきいれ餅

は、米と餛とを搗ませた餅のことであるがこれは天皇御船出に際し一人の老婆が餅を献上しようとして仕度してゐたところ、愈御出船となつたので餅に餛をつけてゐる暇がないそこで米と餛とを一緒に搗き混ぜて差上げたといふ傳説を今に記念する餅である。耳川には橋がなく船で對岸に渡らねばならぬ、此渡船は人を渡すに八分車馬を渡すに十二分を要するが待合時間を入れると好都合に行つて三十分を要する、國道三號線は宮崎縣に於て幹線道路たる機能を發揮し得る唯一の道路と言つてさしつかえないの

に渡船では甚だ不便である、殊に出水などの爲交通杜絶す

することも度々あるとのことだから其の不便さ思やられる、私は美々津延岡間八里を自動車で走つて四十分を要した一



耳川の渡船

里五分間の割合であるから渡船時間三十分とすれば正に六里の行程に當るのである、美々津町は近來町況甚だしく衰へ豫算約四萬圓稅收入は其の約六割位であるが、稅收入の半額は毎年徵收不能だとのことである、縣は耳川架橋を計畫し此の窮狀を救濟し併せて交通の利便を計らむとしてゐる、延岡は五ヶ瀬川の中積地に發達した都會である。窒素肥料の大會社があり將來工業都市として發展する傾向をもつてゐる。延岡で宮崎縣の視察を一應切上げ汽車に乗じて

大分縣に向つたが尙觀るべきものゝ多數を残したので何となく名残がをしまれる日向は實に魅力に富んだ國である。